

# 認証スペックファイル コンバートツール 操作マニュアル

このマニュアルは、認証スペックファイルコンバートツール [UserAccountConverter] の操作方法について記載します。



本書は、認証スペックファイルコンバートツールの操作方法について記載します。

※ 本文中の記載について、特に注釈のない限り、ハードウェアおよびプラットフォームを以下のとおり記載します。

Windows	Windows XP SP3 32bit, Windows7 SP1 32/64bit
Java	Java SE Runtime Environment 7
PC	上記 Windows OS を搭載した IBM/PC AT 互換 PC
端末	業務メニューが動作する端末

端末アプリケーション	端末で動作する業務アプリケーション
PC アプリケーション	PC で動作する業務アプリケーション

# 目次

1. 概要	1
1.1. 動作環境	1
1.2. 認証スペックファイルコンバートツールのインストール	1
1.3. 認証スペックファイルコンバートツールの概要	3
2. 認証スペックファイル変換手順	4
3. 端末への登録	6
3.1. スペック・ファイル名の規則	6
3.2. ファイルの登録方法	6
3.2.1. USB ケーブルでの接続と登録方法	6
3.2.2. 外部メモリデバイスでの登録方法	9



# 1. 概要

本書は、認証スペックファイルコンバートツールの操作方法について説明します。

## 1.1. 動作環境

スペックの作成は、PCで行います。

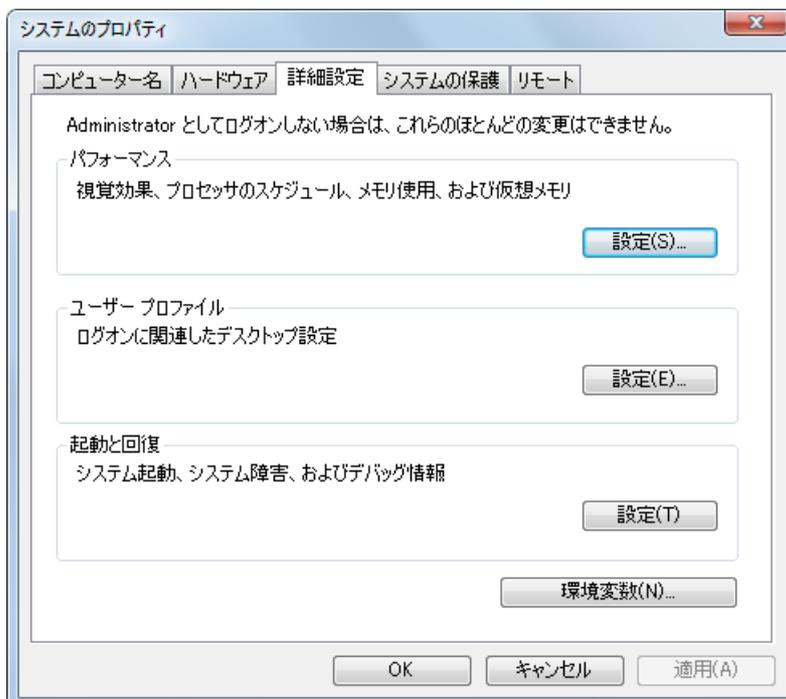
項目	内容
ハードウェア	Windows PC
動作確認OS	Windows XP SP3, Windows7 SP1
必須ソフトウェア	Java SE Runtime Environment 7

## 1.2. 認証スペックファイルコンバートツールのインストール

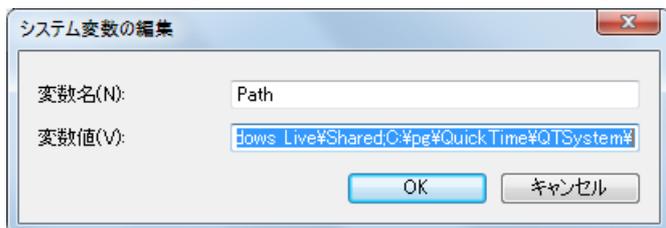
PCに下記の手順で認証スペックファイルコンバートツールをインストールします。  
UserAccountConverter.exeをPC上の任意のフォルダにコピーします。

任意のディレクトリで変換プログラムを実行するには、環境変数 PATHを設定します。

「システムの詳細設定」を開始し、「システムのプロパティ」ダイアログが表示します。  
Javaのソースコードをコンパイルしたり、実行したりするために使われる各プログラムは

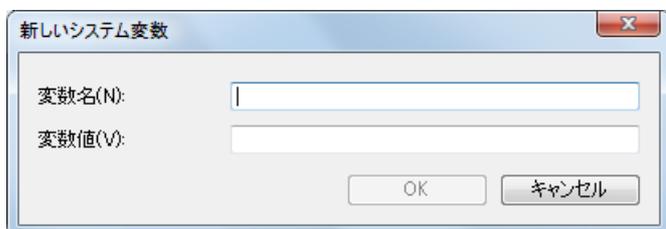


「環境変数」ダイアログが開きます。この画面で **Path** の設定を行います。システム環境変数の中で「変数」が「**Path**」と書かれたものがあるかどうかを探します。見つかった場合には「**Path**」と書かれた箇所を一度クリックして選択してから「編集」ボタンをクリックして下さい。「変数値」の末尾に半角セミコロン「;」に続けて変換プログラムをコピーしたフォルダへの絶対パスを記述します。



なお、システム環境変数の中で「変数」が「**Path**」と書かれたものが無かった場合には「新規」ボタンをクリックして下さい。

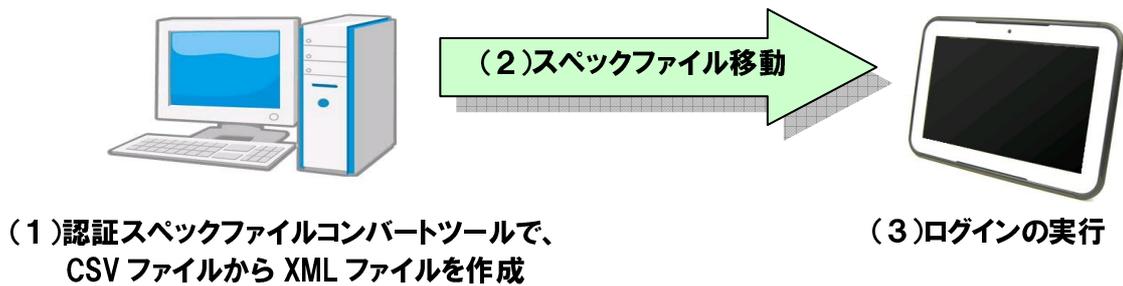
「新しいシステム変数」ダイアログが表示されますので「変数名」に「**Path**」を「変数値」に変換プログラムをコピーしたフォルダへの絶対パスを記述します。



### 1.3. 認証スペックファイルコンバートツールの概要

業務メニューは、業務ソフトウェアを起動する為のメニュー・システムです。業務メニューのユーザは、端末内の XML ファイルで定義されています。

認証スペックファイルコンバートツールは、CSV で作成したユーザアカウントを業務メニューで利用できる XML 形式に変換する、PC 上のコマンドラインプログラムです。



## 2. 認証スペックファイル変換手順

認証スペックファイル作成する手順を説明します。

手順	説明
CSV ファイルの作成	認証スペックファイルを CSV 形式で作成します。
XML ファイル変換	認証スペックファイルを CSV 形式から XML 形式に変換します。
XML ファイルの移動	作成した XML を端末に移動し、ログイン時に適用できるようにします。

### (1) CSV ファイルの作成

読み込み可能な次のような CSV ファイルを作成します。

```
1, 00001, 田中, admin, 01234,
0, 00002, 佐藤, user, 12345,
```

CSV のフィールド構成は、次のとおりです。

順	フィールド名	説明	値
1	EnableSetting	システム設定可能指定	0:無効、1:有効、ただし、全行の内、少なくとも1行は有効とすること
2	UserID	ユニークなユーザID	1~32文字
3	UserName	ユーザ名	1~32文字
4	UsreRole	ユーザの権限	0~32文字
5	UserPassword	ユーザのパスワード	1~32文字、平文、複数のユーザが同じパスワードでないこと。 認証スペックファイルに変化後に暗号化されます。
6	UserPassword2	ユーザの第二パスワード	0~32文字、平文、複数のユーザが同じパスワードでないこと。 認証スペックファイルに変化後に暗号化されます。
行末	—	改行コード	CRLF 又は LF

上記の構成の他に、CSV は、次の事項に注意して作成してください。

項目	指定値	補足
区切り文字	カンマ	
文字コード	utf-8 又は ShiftJIS	
エスケープ	なし	カンマは値に利用できません
トリム	前後空白	

### (2) 変換プログラムの実行

コマンドプロンプトで次のように変換を実行します。

```
> UserAccountConverter.exe src.csv dst.xml
```

コマンドライン要素の詳細は次のようになります。

要素	詳細
UserAccountConverter.exe	プログラム名
src.csv	変換前の CSV ファイルへのパス
dst.csv	変換後の XML ファイルへのパス
-c	文字コード -c utf-8 . . . utf-8、省略可 -c sjis . . . ShiftJIS
-r	改行コード -c none . . . 改行なし、省略可 -r crlf . . . CRLF -r cr . . . CR

変換後の XML は次のようになります。(改行コードを指定した場合)

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<Authenticate>
  <UserInfo>
    <User>
      <EnableSetting>1</EnableSetting>
      <UserID>00001</UserID>
      <UserName>田中</UserName>
      <UserOperationAuthority>admin</UserOperationAuthority>
      <UserPassword>b371f749315d140fa9b51042005c3a3d</UserPassword>
    </User>
    <User>
      <EnableSetting>0</EnableSetting>
      <UserID>00002</UserID>
      <UserName>佐藤</UserName>
      <UserOperationAuthority>user</UserOperationAuthority>
      <UserPassword>ef11be7c2eae3519ba5baf748c5482cf</UserPassword>
    </User>
  </UserInfo>
</Authenticate>
```

コマンドがエラーになってしまう場合は、標準エラー出力を参考に対応します。

表示	意味と対応
Arguments error	コマンドの引数が不正です。 コマンドの引数を確認してください。
File format error	CSV ファイルのフォーマットが不正です。 CSV のフィールド構成を確認してください。 文字列の長さなどにも注意してください。
No record error	CSV にレコードがありません。 CSV ファイルの内容を確認してください。
No administrators error	CSV の全行の EnableSetting 項目が全て無効(0)となっています。 少なくとも1人のユーザの EnableSetting が1となるようにしてください。
Unknown error	不明なエラーが発生しました。 上述の例など簡単な例で変換できるかを確認してください。

## 3. 端末への登録

### 3.1. スペック・ファイル名の規則

業務メニューは、固定名の認証スペックファイルを読み込んで認証を行います。必ず下記のファイル名称でファイルを端末に登録する必要があります。

```
/mnt/sdcard/update/accountdata/UserPassword.xml
```

### 3.2. ファイルの登録方法

端末に認証スペックファイルを登録する方法は、USB ケーブルでPCと端末を接続しファイルを転送する方法と、PCでUSBメモリやSDカードに認証スペックファイルを書き込み、端末で読み出す方法があります。

#### 3.2.1. USB ケーブルでの接続と登録方法

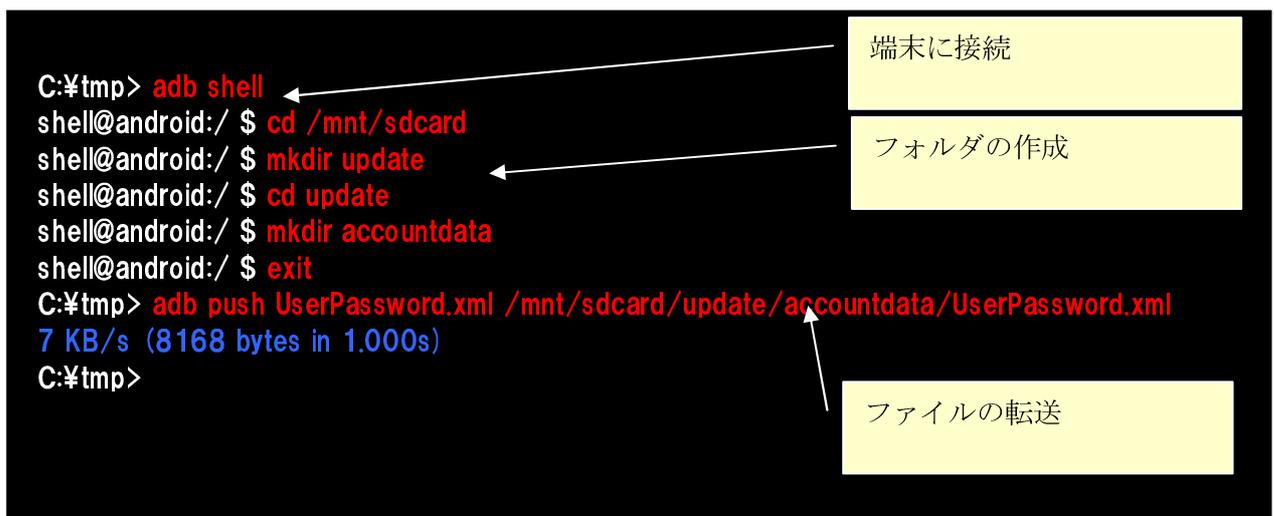
##### ■ Android Debug Bridge (ADB)での接続

ADBで接続する場合、別途Android SDK等ソフトウェアの開発環境をPCにインストールする必要があります。「基本ソフト開発キット」に納められた「ファーストステップガイド」を参照の上、開発環境のインストールを行います。

PC上の %tmp フォルダに、認証スペックファイル [UserPassword.xml] がある場合、コマンドプロンプトを起動し下記コマンド (赤文字) を入力実行します。

青文字の部分 (転送速度) が出力されれば正常に登録が成功しています。

```
C:\%tmp> adb shell
shell@android:/ $ cd /mnt/sdcard
shell@android:/ $ mkdir update
shell@android:/ $ cd update
shell@android:/ $ mkdir accountdata
shell@android:/ $ exit
C:\%tmp> adb push UserPassword.xml /mnt/sdcard/update/accountdata/UserPassword.xml
7 KB/s (8168 bytes in 1.000s)
C:\%tmp>
```



■ 端末をPCのストレージとして接続

Media Transfer Protocol (MTP)で接続する必要があります。

MTPで接続する場合、Windows XP SP3の場合、Windows Media Playerが必要で

マイクロソフトのダウンロードサイト

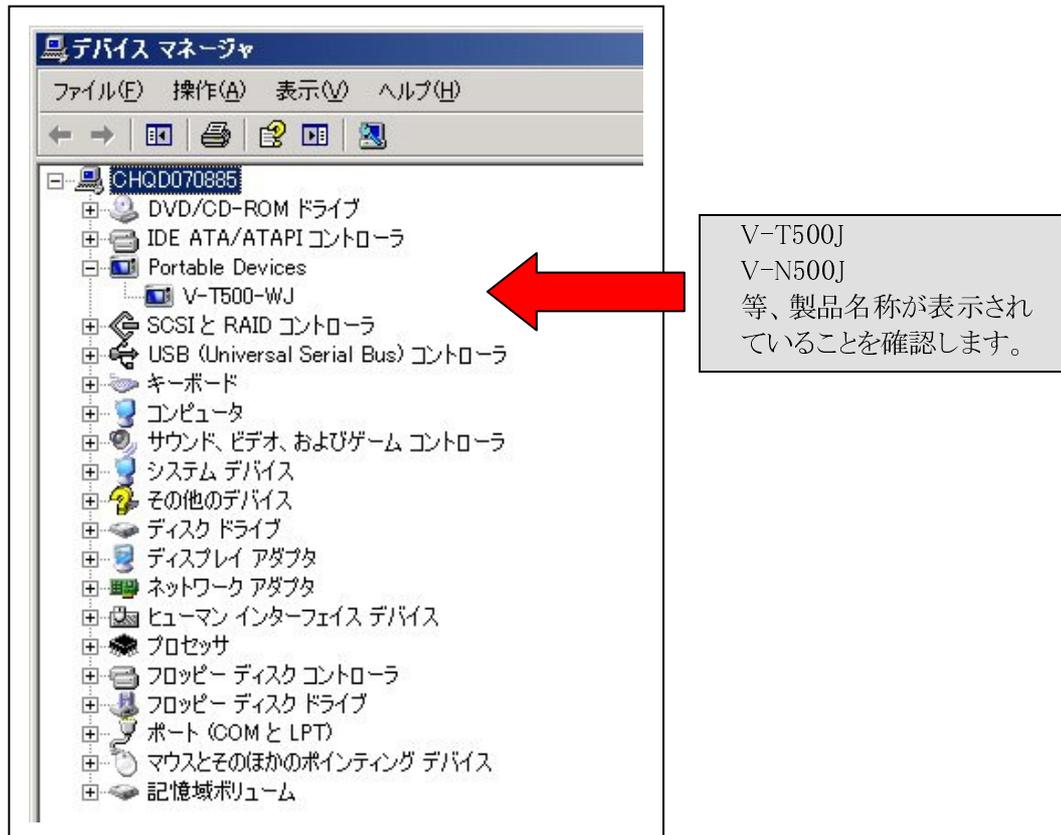
<http://windows.microsoft.com/ja-JP/windows/download-windows-media-player>

からダウンロードしてください。

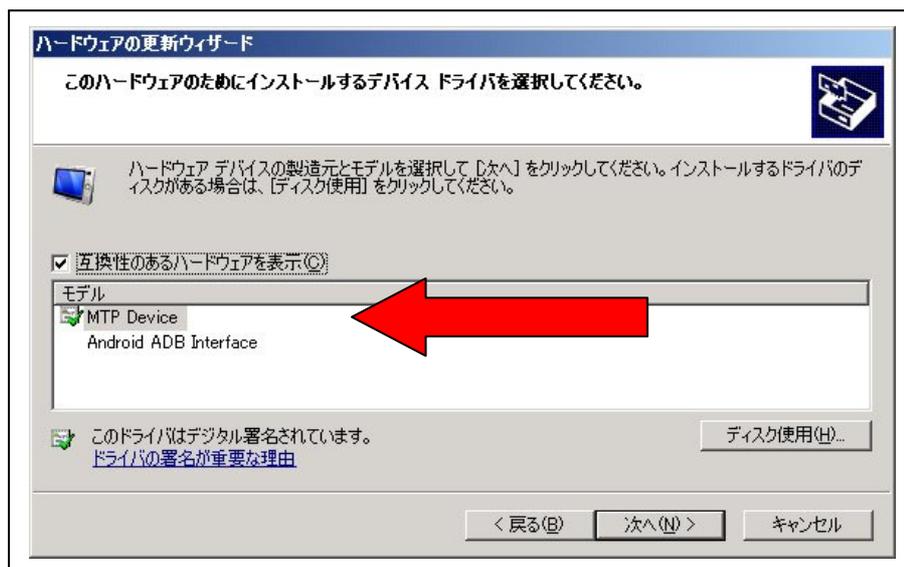
OS	インストールの必要性
Windows XP SP3	Windows Media Player Ver.10以上のインストールが必要
Windows 7 SP1	インストールは必要ありません

端末側で、「設定」-「開発者向けオプション」で「USB デバッグ」のチェックが外れていることを確認します。

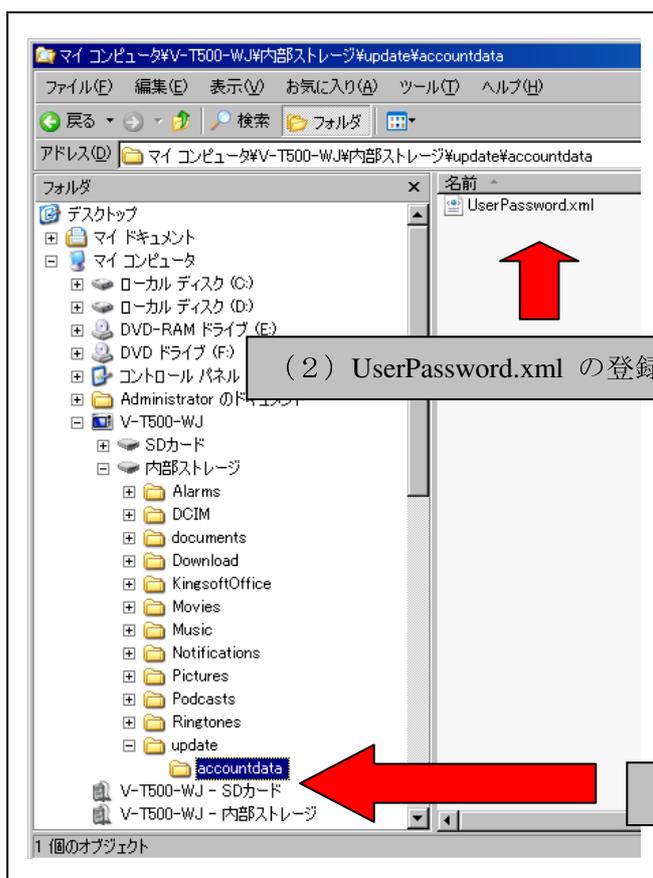
PC側のデバイスマネージャで、MTPドライバがロードされていることを確認します。下図のように、ポータブル・デバイスとして表示されます。



MTPドライバがロードされていない場合は、デバイスマネージャでドライバを更新します。「ハードウェアの更新ウィザード」で、「検索しないで、インストールするドライバを選択する」を指定し、下図のようにMTPドライバを指定してインストールします。



正しくドライバがロードされると、マルチメディアデバイスとしてファイルエクスプローラから参照が可能となります。



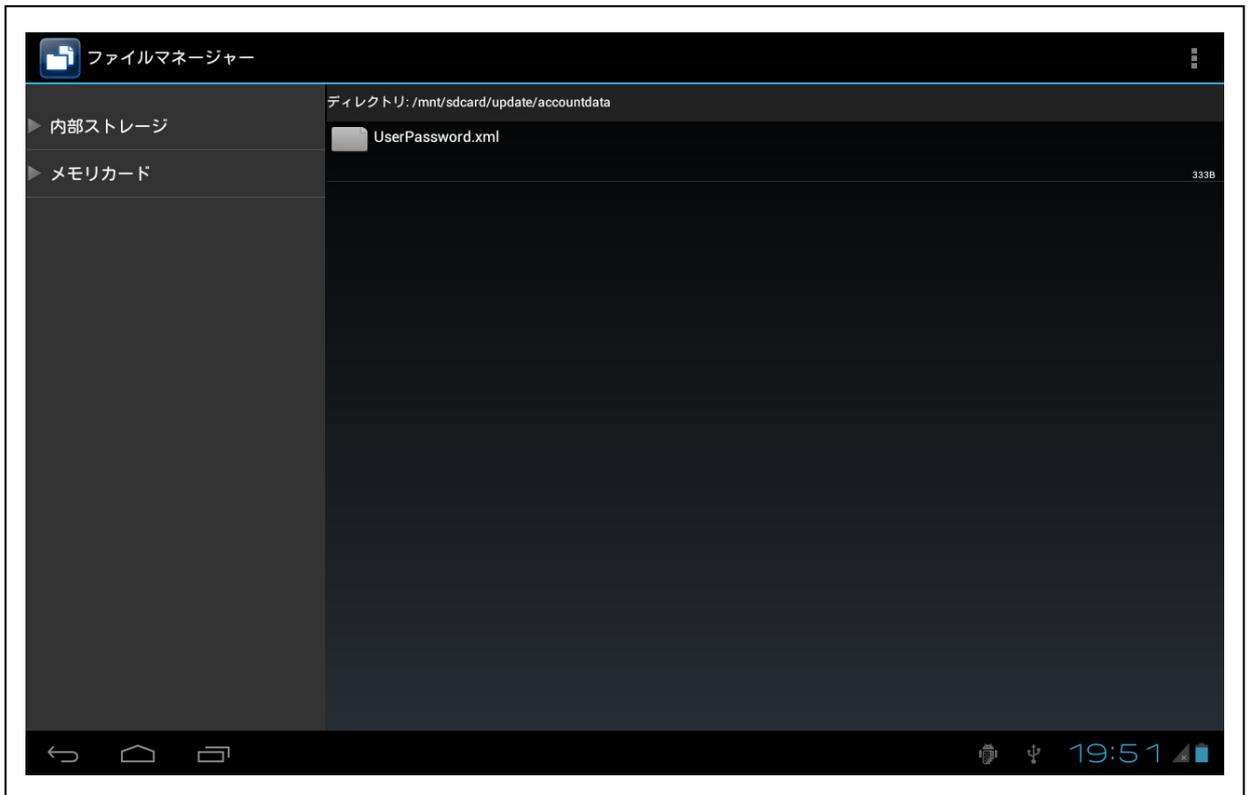
「内蔵ストレージ」と表示されているフォルダ階層が、端末内蔵ストレージの /mnt/sdcard を意味します。

- (1) フォルダ「update/accountdata」を作成します。
- (2) スペック・ファイル「UserPassword.xml」を登録します。

### 3.2.2. 外部メモリデバイスでの登録方法

PC上で作成した認証スペックファイルを、SDメモリ或いは USB メモリに書き込み、端末で読み込み登録します。

端末にメモリデバイス挿入後、「ファイルマネージャ」を起動します。  
「メモリカード」または「USBストレージ」から、認証スペックファイルをコピーし、内蔵ストレージの /mnt/sdcard/update/accountdata フォルダを作成し貼り付けます。



## ご注意

- このソフトウェアおよびマニュアルの、一部または全部を無断で使用、複製することはできません。
- このソフトウェアおよびマニュアルは、本製品の使用許諾契約書のもとでのみ使用することができます。
- このソフトウェアおよびマニュアルを運用した結果の影響については、一切の責任を負いかねますのでご了承ください。
- このソフトウェアの仕様、およびマニュアルに記載されている事柄は、将来予告なしに変更することがあります。
- このマニュアルの著作権はカシオ計算機株式会社に帰属します。
- 本書中に含まれている画面表示は、実際の画面とは若干異なる場合があります。予めご了承ください。

© 2012 カシオ計算機株式会社

Microsoft, MS, Windows Media Player, Windows, Windows XP, Windows 7 は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。Microsoft 社の製品は、OEM 各社に、Microsoft Corporation の 100%出資子会社である Microsoft Licensing, Inc.によりライセンス供与されています。